啐　啄　同　時

平成 27 年 5 月

校長室だより

学校教育目標「大好き芦田　大好きみんな　大好き自分」

青垣地域四小学校の統合を見据え、芦田の素晴らしさを子どもたちに伝えたいと思い、今月は、芦田が輩出した俳人「細見綾子」について掲載します。

今月の１４日(木)ＧＴ(ゲストティーチャー)の蘆田朝子さんをお招きし、「細見綾子」の生い立ちと芦田小学校の校歌について話していただきました。その内容をお伝えします。

細見綾子の生い立ち

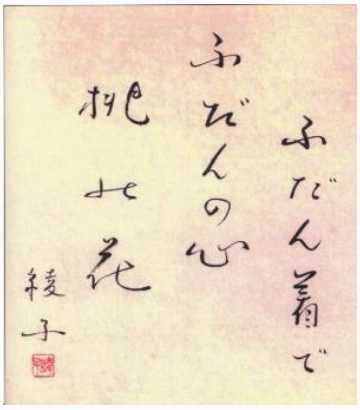
1907 年（明治 40 年）3 月 31 日
父・細見喜市、母・とりの長女として兵庫県丹波市青垣町東芦田に生まれる。

1920 年(大正 9 年) 13 歳 11 月 1 日、父病死。

1927 年(昭和 2 年) 20 歳 3 月、日本女子大学国文科卒業。
太田庄一(東大医学部助手)を養子に迎え結婚。
東京･本郷区 小石川原町に住む。

1929 年(昭和 4 年) **22 歳 1 月**
夫が病死し、帰郷する。**4 月、母が病没**。秋には本人が肋膜炎を患う。療養中、佐治町の医師 **田村菁斎の勧めで俳句を始める**。松瀬青々主宰の「倦鳥」に投句する。

1930 年(昭和 5 年) 23 歳
病床から初めて散歩に出て得た
「来てみれば ほほけちらして 猫柳」が
「倦鳥」に初入選する。



1934 年(昭和 9 年) 27 歳
春、転地療養のため大阪池田市石橋に仮寓。

1938 年(昭和 13 年) 31 歳
母の手織木綿の着物を愛用、
「ふだん着で ふだんの心 桃の花」が自然に生まれた。
※「平常心」ことを言っているようで、私はこの句が好きです。

細見綾子　校歌作成にあたっての想い

《 校歌１番の意味 》

「**土の恵みの香の中に**」というのは、丹波の黒土をどのようにも讃めたたえたかったのです。「**香の中に**」とは少しむずかしいかと思いましたが、どうしても**香ぐわしい土**です。『土なんか何の匂いもしないじゃないか』 と皆さんは思うかもしれません。けれども、ほんとうは匂います。

今は匂わなくても いつかは匂う、そんなものです。五年、十年と経って、いやもっと二十年経ってもよい、**これが丹波の土の匂いか･･･**と思う時があったら、『おばさんの話したのはこれか』と思って下さい。

私は東京に暮らしていて、**この土の匂い**がよく鼻をかすめます。いろいろなものがごっちゃになって、その中にちゃんとこの匂いが混じっているからふしぎなものです。私はまだ外国に行ったことはありませんが、外国に行ってもやはり匂うでしょう。一層匂うのではないかと思います。土は、父とも母とも同じものです。皆さんが気づかないほどの土の恵みの中で、**すこやかに生いたって小学校の１年生となる日**、この日は嬉しい日です。「**学びの第一歩**」を踏み出すわけで、ここで踏み出す第一歩をいいものだと思うのです。元気にはつらつと第一歩を踏み出してほしいと願います。

《 校歌２番の意味 》

「**春は霞の青垣山　夢を育てて豊なる**」というのは、私達を取り巻いている**青く垣なす山々、いい山々ですね**。この山に春が来れば霞がかかります。皆さんは この山々に霞がかかるごとく夢を持ってほしいのです。将来どういうことをしたいとか、どんな人になりたいとか、その他いろんな夢を持っていることと思います。夢を持つことによって皆さんは大きくなるのです。

「**秋は黄金の稲の波　知恵のみのり たしかなり**」というのは、稲が熟し一面の黄金の波です。学校へ通う道の稲の穂が重くたれます。それを見る時、自分はどれだけ賢くなったか、自分を振り返って下さい。自分で確かめて下さい。

《 校歌３番の意味 》

「**強く正しい心身を明日の希望にきたえつつ　若木のみどりあふれたる**」というのは、強く正しい心身を明日の希望のためにつちかい、鍛えましょう。「強い」というと、腕力に強い、つまり喧嘩に強いことを連想するかもしれませんが、そうではありません。強いことは正しいことといつも一緒でなくてはなりません。勇気のいることです。一人ひとりは、山に植える苗木の一本一本と同じであること、そのみどりの溢れているところのわれわれの芦田小学校であるのです。

細見綾子「花の色」より

明治６年以来、「**芦田小学校運動唱歌**」は作られていたが校歌はなかった。昭和 40 年当時の**校長安井威彦**氏が、夏休みに墓参りのため帰省されていた細見綾子さんに校歌の作詞を依頼され、私の名誉と喜んで引き受けられた。そしてその 10 月末に出来上がったのである。**作曲**は**武庫川学院音楽科 森 清 教授**によってなされ、40 年 12 月 20 日大学の院長室で**公江喜市郎学院長（西芦田）**より手渡された。41 年 2 月 10 日の校歌発表会をもって、**創立以来 93 年間**、児童・地域住民・学校関係者の熱く長く切望してきた校歌が完成したのである。